



口腔ケアは、全身疾患の医療や、術後ケアとして、口腔ケア・口腔機能向上の関わりは、多職種との連携が重要であり、チーム医療の推進が重要視されて来ています。そこで今回は、ケアマネージャーとして豊富な経験を持つ歯科衛生士、齊藤美香先生（旭川市DHケアプラン主宰）に解説をお願いいたしました。

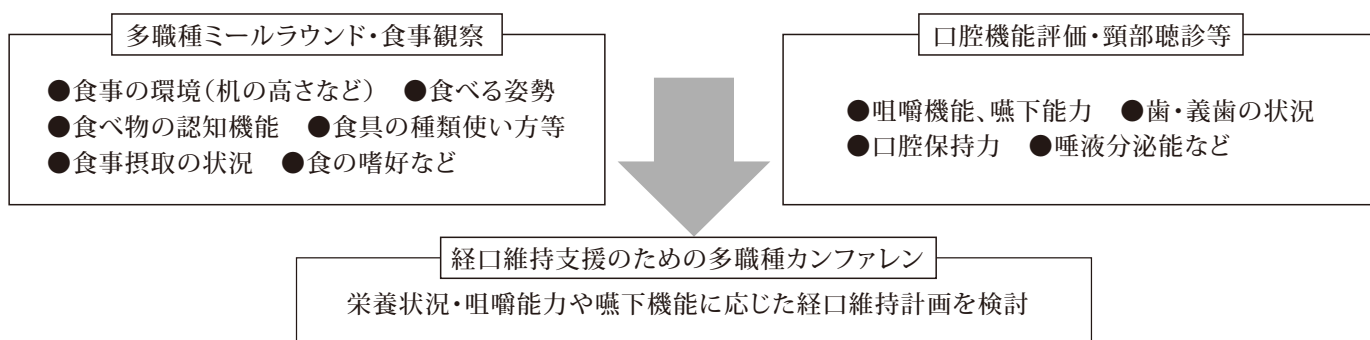
## チーム医療の推進が大事です

わが国では諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進んでおり2025年には3657万人となり、2045年には75歳以上の全人口に対する割合が25%に達すると言われています。長寿大国でもあり、女性は世界一の平均寿命をしていますが、平均寿命と健康寿命の差も広がりつつあり約10年の幅が出来ています。健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限される事無く生活できる期間）を延伸することが重要であり、全身疾患の医療や予後において口腔ケア・口腔機能の向上等の関わりが重要視され、近年、チーム医療の推進がされています。

平成27年度介護保健報酬制度改正においては、中重度の要介護者や認知症高齢者への対応が強化され、経口維持加算・経口移行加算、療養食加算が改正され「口から食べる楽しみの支援の充実」が図られています。

### 【口から食べる楽しみの支援流れ・効果】

食事の際に多職種間で食事場면을観察することで咀嚼能力等の口腔機能や嚥下機能食事環境・姿勢等を適切に評価することが出来、さらに多職種間で意見交換を通じて必要な視点を包括的に踏まえることが出来る。これにより口から食べるための日々の適切な支援の充実につながり必要な栄養の摂取、体重の増加、誤嚥性肺炎の予防等が期待できます。



（参考：平成26年度老人保健健康増進等事業より）

### 《事例》

N・Yさん 女性 87歳 脳梗塞後下肢麻痺 老人性認知症 上下総義歯

3ヶ月前より食事後むせ込むようになり、内科医より誤嚥の疑いありとの診断を受け、入所施設での歯科関係者無しの会議では経腸栄養へ移行して義歯をはずしましょう。と計画が立ち、家族より「義歯が合えば食べられるのでは？」との訴えで歯科専門職介入へ。

### 【症状】

義歯は合わないのではなく口腔乾燥で吸着が悪く筋力も低下しているため、咀嚼が上手くいかず、むせこんでいた。（歯科専門職）

### 【環境】

食事時車いすの高さより机の方がはるかに高かった。箸が竹製で光沢がありすべって持ちづらい。持てないので駆け込むように食べていた。など（CW・OT・PT）

### 《対策》

歯科専門職+看護師、CW、OT、PTと連携しそれぞれの専門分野でのN・Yさんの問題点をあげ改善し、定期的合同会議を持ち検討・実践した。

4ヶ月後N・Yさんは今も口から食べられています。

多職種協働により「食べられる口を支援する」ため歯科専門職と連携し毎日習慣化しましょう。

